

# アクサダイレクト生命 PRESS RELEASE

2016年05月12日

## アクサダイレクト生命 2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)の業績を発表

アクサダイレクト生命保険株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:斎藤英明)は、2016年5月12日、日本会計基準に基づく2015年度(平成27年度)の業績を発表いたしました。

### 収入指標

- ・ 新契約件数は前年同期比 58.8%増の 18,651 件、保有契約件数は前年度末比 20.7%増の 72,671 件、保険料等収入は前年同期比 18.3%増の 2,879 百万円となりました。

### 収益指標

- ・ 経常収益が 2,885 百万円となる中、経常費用 6,227 百万円(保険金等支払金 875 百万円、責任準備金等繰入額 950 百万円、事業費 2,875 百万円、その他経常費用 1,526 百万円)、特別損失 7 百万円および法人税等合計△828 百万円を控除した結果、当期純損失は 2,520 百万円となりました。

### 財務基盤

- ・ ソルベンシー・マージン比率は 3,025.4%となっており、十分に高い健全性を確保しております。

アクサダイレクト生命の代表取締役社長、斎藤英明は、次のようにコメントしています。

「新契約は開業以来最高かつ前年度比 59%増の 18,651 件となり、保有契約も 7 万件を突破いたしました。インターネットで生命保険を考える、調べる、比較することが当たり前となりお客さま層は拡大していますが、当社は最新技術を駆使した利便性の高いサービスと手順で合理的な保険商品により様々なお客さまのニーズに対応しております。

たとえば昨年 9 月には、合理的な保障で手頃な保険料を実現した新商品「アクサダイレクトの終身医療」を発売いたしました。販売直後から幅広い層のお客さまにご好評いただいております。

また、徹底した行動調査に基づいて Web サイトの全面更新を行いました。お客さまにより納得・安心をいただけるコンテンツとデザインをご提供できるサイトへと生まれ変わり、多くのお客さまにご利用いただいております。

2015 年度の大きな成長は、幅広いお客さまにご支持いただいた結果として大変感謝をしております。しかしながら、これに甘んじることなく、従来から推進しておりますオムニチャネル対応、B2B2C ビジネスの拡大に加えて、私どもはスピード感ある経営のもと、アクサダイレクト生命ならではの感じていただける新しい体験価値を実現することに尽力してまいります。」

#### アクサダイレクト生命について

アクサダイレクト生命は、2008年4月より営業を開始した日本初のインターネット専業生命保険会社で、アクサ生命保険株式会社の100%子会社です。アクサ生命、アクサダイレクト生命、アクサ損害保険の3社で形成されているアクサ ジャパン グループのダイレクトビジネスを担う生命保険会社として、手頃でわかりやすく、お客さまが自信を持って選択できる保険商品を、インターネットを通じて提供しています。チャンネルとデバイスを複合的に活用することでサービスの利便性向上をはかり、お客さまが納得してご契約いただけるよう独自のオムニチャンネルを構築しています。

#### AXA グループについて

AXA は世界 59 ヶ国で 16 万 6,000 人の従業員を擁し、1 億 300 万人のお客さまにサービスを提供する、保険および資産運用分野の世界的なリーディングカンパニーです。国際会計基準に基づく 2015 年度通期の売上は 990 億ユーロ、アンダーライティング・アーニングス(基本利益)は 56 億ユーロ、2015 年 12 月 31 日時点における運用資産総額は 1 兆 3,630 億ユーロにのびます。AXA はユーロネクスト・パリのコンパートメント A に上場しており、AXA の米国預託株式は OTC QX プラットフォームで取引され、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)や FTSE4GOOD などの国際的な主要 SRI インデックスの構成銘柄として採用されています。また、国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP FI)による「持続可能な保険原則」および「責任投資原則」に署名しています。

～本件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします～  
アクサダイレクト生命保険株式会社 セールス&マーケティング部 広報  
TEL:03-5210-1540 FAX:03-5210-1542  
E-mail: [communication@axa-direct-life.co.jp](mailto:communication@axa-direct-life.co.jp)



アクサダイレクト生命保険株式会社

redefining / standards

## 2015年度決算(案)について

アクサダイレクト生命（代表取締役社長 齋藤 英明）の2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）の決算(案)をお知らせいたします。

### <目次>

1. 主要業績	……	1 頁
2. 2015年度末保障機能別保有契約高	……	3 頁
3. 2015年度決算(案)に基づく契約者配当金例示	……	3 頁
4. 2015年度一般勘定資産の運用状況	……	4 頁
5. 貸借対照表	……	10 頁
6. 損益計算書	……	13 頁
7. 経常利益等の明細（基礎利益）	……	15 頁
8. 株主資本等変動計算書	……	16 頁
9. 債務者区分による債権の状況	……	17 頁
10. リスク管理債権の状況	……	17 頁
11. ソルベンシー・マージン比率	……	18 頁
12. 2015年度特別勘定の状況	……	18 頁
13. 保険会社及びその子会社等の状況	……	18 頁

以上

---

お問い合わせは、次にお願いたします。

# 2015年度決算(案)のお知らせ

2016年5月12日

アクサダイレクト生命保険株式会社

2015年度の決算(案)の概要は以下のとおりです。

## 1. 主要業績

### (1) 保有契約高及び新契約高

#### 保有契約高

(単位：千件、億円、%)

区 分	2014年度末				2015年度末			
	件 数		金 額		件 数		金 額	
	前年度 末比		前年度 末比		前年度 末比		前年度 末比	
個 人 保 険	60	112.6	4,256	105.8	72	120.7	4,731	111.2
個 人 年 金 保 険	-	-	-	-	-	-	-	-
団 体 保 険	-	-	-	-	-	-	-	-
団 体 年 金 保 険	-	-	-	-	-	-	-	-

#### 新契約高

(単位：千件、億円、%)

区 分	2014年度						2015年度					
	件 数		金 額				件 数		金 額			
	前年度比		前年度比	新契約	転換による 純増加	前年度比		前年度比	新契約	転換による 純増加		
個 人 保 険	11	136.0	597	112.4	597	-	18	158.8	868	145.3	868	-
個 人 年 金 保 険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
団 体 保 険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
団 体 年 金 保 険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## (2) 年換算保険料

### 保有契約

(単位：百万円、%)

区 分	2014年度末		2015年度末	
		前年度 末比		前年度 末比
個 人 保 険	2,467	112.5	2,948	119.5
個 人 年 金 保 険	-	-	-	-
合 計	2,467	112.5	2,948	119.5
うち医療保障・ 生前給付保障等	995	111.6	1,251	125.8

### 新契約

(単位：百万円、%)

区 分	2014年度		2015年度	
		前年度比		前年度比
個 人 保 険	508	139.9	753	148.1
個 人 年 金 保 険	-	-	-	-
合 計	508	139.9	753	148.1
うち医療保障・ 生前給付保障等	199	135.1	380	191.0

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です（一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額）。
2. 医療保障給付（入院給付、手術給付等）、生前給付保障給付（特定疾病給付、介護給付等）、保険料払込免除給付（障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む）等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。

## (3) 主要収支項目

(単位：百万円、%)

区 分	2014年度		2015年度	
		前年度比		前年度比
保 険 料 等 収 入	2,434	108.8	2,879	118.3
資 産 運 用 収 益	1	107.5	1	104.1
保 険 金 等 支 払 金	906	141.1	875	96.6
資 産 運 用 費 用	0	98.3	0	93.0
経 常 損 失 ( △ )	△ 3,128	-	△ 3,341	-

## (4) 総資産

(単位：百万円、%)

区 分	2014年度		2015年度	
		前年度末比		前年度末比
総 資 産	12,540	103.1	10,949	87.3

## 2. 2015年度末保障機能別保有契約高

(単位：千件、億円)

項 目		個人保険		個人年金保険		団体保険		合計	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
死亡保障	普通死亡	32	4,731	-	-	-	-	32	4,731
	災害死亡	9	1,031	-	-	-	-	9	1,031
	その他の条件付死亡	-	-	-	-	-	-	-	-
生存保障		7	54	-	-	-	-	7	54
入院保障	災害入院	23	1	-	-	-	-	23	1
	疾病入院	23	1	-	-	-	-	23	1
	その他の条件付入院	74	3	-	-	-	-	74	3
障害保障		-	-	-	-	-	-	-	-
手術保障		43	-	-	-	-	-	43	-

項 目	団体年金保険		財形保険・財形年金保険		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生存保障	-	-	-	-	-	-

項 目	医療保障保険		項 目	就業不能保障保険	
	件数	金額		件数	金額
入院保障	-	-	就業不能保障	-	-

- (注) 1. 個人年金保険、団体保険、団体年金保険、財形保険・財形年金保険、医療保障保険及び就業不能保障保険については、保有はありません。
2. 入院保障欄の金額は入院給付日額を表します。
3. 受再保険については、保有はありません。

## 3. 2015年度決算(案)に基づく契約者配当金例示

当社は無配当の個人保険のみの取扱いのため、該当する事項はありません。

## 4. 2015年度の一般勘定資産の運用状況

### (1) 2015年度の資産の運用状況

#### ①運用環境

2015年度の運用環境は、日銀による「量的・質的金融緩和」が継続していることなどから低金利が持続いたしました。

日銀は、1月29日の金融政策決定会合で「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入を決定し、金融緩和を強化しました。この発表後、国債の利回りは幅広い年限で低下し、2月末時点で残存期間が10年までの国債利回りがマイナスとなりました。10年国債利回りは、3月23日には今年度最低利回り $\Delta 0.114\%$ 、3月末は $\Delta 0.029\%$ となっております。

日経平均株価は、5月に円安進行や堅調な企業決算の発表などから上昇し2万円台を回復、5月20日には東証一部の時価総額が590兆円弱に達し、バブル期以来25年5ヵ月ぶりとなる高水準に達しました。6月24日には日経平均株価の終値が20,868円となり、ITバブル期の高値を上回りました。

しかし、世界的な景気下振れや原油安の影響への懸念等により、東京株式市場は史上初めて年初から6営業日連続で下落するなどし、2月12日には日経平均株価は15,000円を下回り、3月末は16,758円で終値をつけております。

一方、米国では12月16日の連邦公開市場委員会(FOMC)で、政策金利の0.25%引き上げが決まりましたが、3月のFOMCではハト派的な内容となり、FOMCメンバーの政策金利見通しについて、2016年に2回に下方修正されました。

原油・資源価格の値動きや新興国経済の減速懸念は、依然予断をゆるさず、リスク回避の動きで円高がすすむリスクもある状況が続いています。

#### ②当社の運用方針

当社では、引続き、資産の流動性を十分に確保したポートフォリオ運営を行います。具体的には預金と日本国債への投資を運用方針の基本とし、流動性に関しては適切なコントロールを行いつつ、信用リスクも適切な範囲内に抑え、中長期的にも安定した健全なポートフォリオの構築を目指しています。

#### ③運用実績の概況

2016年3月末の総資産は109億円となりました。そのうち、現金及び預貯金が56億円、有価証券は保有しておりません。

資産運用損益につきましては、利息収入が1百万円、支払利息が0百万円となりました。

## (2) 資産の構成

(単位：百万円、%)

区 分	2014年度末		2015年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
現預金・コールローン	5,558	44.3	5,669	51.8
買 現 先 勘 定	-	-	-	-
債券貸借取引支払保証金	-	-	-	-
買 入 金 銭 債 権	-	-	-	-
商 品 有 価 証 券	-	-	-	-
金 銭 の 信 託	-	-	-	-
有 価 証 券	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-
株 式	-	-	-	-
外 国 証 券	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-
株 式 等	-	-	-	-
そ の 他 の 証 券	-	-	-	-
貸 付 金	-	-	-	-
不 動 産	17	0.1	34	0.3
繰 延 税 金 資 産	1,140	9.1	847	7.7
そ の 他	5,823	46.4	4,399	40.2
貸 倒 引 当 金	-	-	-	-
合 計	12,540	100.0	10,949	100.0
う ち 外 貨 建 資 産	-	-	-	-

## (3) 資産の増減

(単位：百万円)

区 分	2014年度	2015年度
現 預 金 ・ コ ー ル ロ ー ン	2,839	110
買 現 先 勘 定	-	-
債 券 貸 借 取 引 支 払 保 証 金	-	-
買 入 金 銭 債 権	-	-
商 品 有 価 証 券	-	-
金 銭 の 信 託	-	-
有 価 証 券	-	-
公 社 債	-	-
株 式	-	-
外 国 証 券	-	-
公 社 債	-	-
株 式 等	-	-
そ の 他 の 証 券	-	-
貸 付 金	-	-
不 動 産	△ 3	16
繰 延 税 金 資 産	△ 384	△ 293
そ の 他	△ 2,074	△ 1,424
貸 倒 引 当 金	1	-
合 計	377	△ 1,590
う ち 外 貨 建 資 産	-	-

## (4) 資産運用関係収益

(単位：百万円)

区 分	2014年度	2015年度
利息及び配当金等収入	1	1
預貯金利息	1	1
有価証券利息・配当金	-	-
貸付金利息	-	-
不動産賃借料	-	-
その他利息配当金	-	-
商品有価証券運用益	-	-
金銭の信託運用益	-	-
売買目的有価証券運用益	-	-
有価証券売却益	-	-
国債等債券売却益	-	-
株式等売却益	-	-
外国証券売却益	-	-
その他	-	-
有価証券償還益	-	-
金融派生商品収益	-	-
為替差益	-	-
貸倒引当金戻入額	-	-
その他運用収益	-	-
合 計	1	1

## (5) 資産運用関係費用

(単位：百万円)

区 分	2014年度	2015年度
支 払 利 息	0	0
商 品 有 価 証 券 運 用 損	-	-
金 銭 の 信 託 運 用 損	-	-
売 買 目 的 有 価 証 券 運 用 損	-	-
有 価 証 券 売 却 損	-	-
国 債 等 債 券 売 却 損	-	-
株 式 等 売 却 損	-	-
外 国 証 券 売 却 損	-	-
そ の 他	-	-
有 価 証 券 評 価 損	-	-
国 債 等 債 券 評 価 損	-	-
株 式 等 評 価 損	-	-
外 国 証 券 評 価 損	-	-
そ の 他	-	-
有 価 証 券 償 還 損	-	-
金 融 派 生 商 品 費 用	-	-
為 替 差 損	-	-
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	-	-
貸 付 金 償 却	-	-
賃 貸 用 不 動 産 等 減 価 償 却 費	-	-
そ の 他 運 用 費 用	-	-
合 計	0	0

(6) 資産運用に係わる諸効率

①資産別運用利回り

(単位：%)

区 分	2014年度	2015年度
現 預 金 ・ コ ー ル ロ ー ン	0.03	0.02
買 現 先 勘 定	-	-
債 券 貸 借 取 引 支 払 保 証 金	-	-
買 入 金 銭 債 権	-	-
商 品 有 価 証 券	-	-
金 銭 の 信 託	-	-
有 価 証 券	-	-
う ち 公 社 債	-	-
う ち 株 式	-	-
う ち 外 国 証 券	-	-
貸 付 金	-	-
不 動 産	-	-
一 般 勘 定 計	0.01	0.01
う ち 海 外 投 融 資	0.02	0.03

(注) 利回り計算式の分母は帳簿価額ベースの日々平均残高、分子は経常損益中、資産運用収益－資産運用費用として算出した利回りです。

(注) 海外投融資とは、外貨建資産と円建資産の合計です。

②売買目的有価証券の評価損益

該当する事項はありません。

③有価証券の時価情報(売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの)

該当する事項はありません。

④金銭の信託の時価情報

該当する事項はありません。

## 5. 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2014年度 (2015年3月31日現在)	2015年度 (2016年3月31日現在)	科 目	2014年度 (2015年3月31日現在)	2015年度 (2016年3月31日現在)
( 資 産 の 部 )			( 負 債 の 部 )		
現 金 及 び 預 貯 金	5,558	5,669	保 険 契 約 準 備 金	2,913	3,863
現 金	0	0	支 払 備 金	134	213
預 貯 金	5,558	5,669	責 任 準 備 金	2,779	3,650
有 価 証 券	-	-	代 理 店 借	7	10
有 形 固 定 資 産	27	43	再 保 険 借	68	47
建 物	17	34	そ の 他 負 債	413	407
リ ー ス 資 産	-	-	未 払 法 人 税 等	4	5
そ の 他 の 有 形 固 定 資 産	9	8	未 払 金	4	2
無 形 固 定 資 産	69	45	未 払 費 用	377	364
ソ フ ト ウ ェ ア	69	45	預 り 金	2	2
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産	-	-	リ ー ス 債 務	-	-
再 保 険 貸	60	73	資 産 除 去 債 務	8	12
そ の 他 資 産	5,683	4,271	仮 受 金	15	20
未 収 金	1,177	1,220	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	4	6
前 払 費 用	18	46	価 格 変 動 準 備 金	0	0
未 収 収 益	0	0	繰 延 税 金 負 債	-	-
預 託 金	41	40	負債の部合計	3,407	4,336
保 険 業 法 第 113 条 繰 延 資 産	4,444	2,963	( 純 資 産 の 部 )		
そ の 他 の 資 産	0	0	資 本 金	9,750	9,750
繰 延 税 金 資 産	1,140	847	資 本 剰 余 金	8,590	8,590
貸 倒 引 当 金	-	-	資 本 準 備 金	8,590	8,590
			利 益 剰 余 金	△ 9,207	△ 11,727
			そ の 他 利 益 剰 余 金	△ 9,207	△ 11,727
			繰 越 利 益 剰 余 金	△ 9,207	△ 11,727
			株 主 資 本 合 計	9,133	6,612
			そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	-	-
			評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	-	-
			純資産の部合計	9,133	6,612
資産の部合計	12,540	10,949	負債及び純資産の部合計	12,540	10,949

## 【注記】

### 1. 会計方針に関する事項

#### (1) 有形固定資産の減価償却の方法

有形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっております。

##### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

##### ② リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### (2) 無形固定資産の減価償却の方法

利用可能期間（主として5年）に基づく定額法によっております。

#### (3) 貸倒引当金の計上方法

貸倒引当金は、資産の自己査定基準および償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産、民事再生等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という）に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者（以下「実質破綻先」という）に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という）に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を計上しております。すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

#### (4) 役員退職慰労引当金の計上方法

役員退職慰労引当金は、役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、支給見込額のうち、当年度末において発生したと認められる額を計上しております。

#### (5) 価格変動準備金の計上方法

価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

#### (6) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。

#### (7) 責任準備金の積立方法

責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）により計算しております。

#### (8) 保険業法第113条繰延資産の償却方法

保険業法第113条繰延資産の償却方法は、定款の規定に基づき償却しております。

### 2. 金融商品の状況に関する事項及び金融商品の時価等に関する事項

保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、負債の特性やキャッシュフローの状況を踏まえ、流動性を重視しつつ安定的な利息収入を得ることを目指しております。こうした認識に基づき、具体的には、必要な現預金を維持することを主眼としております。資金調達に係る流動性リスクについては、各部署からの報告に基づき関連部門が適時に将来キャッシュフロー分析を行い、必要な手許流動性を維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

主な金融資産及び金融負債にかかる貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預貯金	5,669	5,669	—

(注) 現金及び預貯金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品  
該当する事項はありません。

3. 有形固定資産の減価償却累計額（リース資産含む）は 28 百万円であります。
4. 関係会社に対する金銭債権の総額は 1,127 百万円、金銭債務の総額は 10 百万円であります。
5. 繰延税金資産の総額は、2,163 百万円、繰延税金負債の総額は、838 百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は、477 百万円であります。なお、繰延税金資産の発生 of 主な原因別内訳は、営業権 1,584 百万円、繰越欠損金 370 百万円であります。繰延税金負債の発生 of 主な原因別内訳は、保険業法第 113 条繰延資産 836 百万円であります。

当年度における法定実効税率は 28.85%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の主要な内訳は、評価性引当額の増減額△2.45%、税率差異の増減額△0.64%であります。

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成 28 年法律第 15 号）及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」（平成 28 年法律第 13 号）が平成 28 年 3 月 29 日に成立したことに伴い、当会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までに解消が見込まれる一時差異については 28.85%から 28.24%、平成 30 年 4 月 1 日以降に開始する会計年度に解消が見込まれる一時差異について、28.85%から 28.00%へそれぞれ変更になりました。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が 6 百万円増加し、法人税等調整額は 6 百万円減少しております。

6. 保険業法施行規則第 73 条第 3 項において準用する同規則第 71 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金（以下「出再支払備金」という。）の金額は 11 百万円であり、同規則第 71 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金（以下「出再責任準備金」という。）の金額は 32 百万円であります。
7. 1 株当たりの純資産額は 10,258 円 79 銭であります。
8. 保険業法第 113 条繰延資産の額は、2,963 百万円であります。
9. 保険業法第 259 条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当年度末における当社の今後の負担見積額は 33 百万円であります。なお、当該負担金は拠出した年度の事業費として処理しております。
10. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

## 6. 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	2014年度	2015年度
	〔2014年4月1日から 2015年3月31日まで〕	〔2015年4月1日から 2016年3月31日まで〕
経常収益	2,501	2,885
保険料等収入	2,434	2,879
保険料	2,332	2,742
再保険収入	102	137
資産運用収益	1	1
利息及び配当金等収入	1	1
預貯金利息	1	1
有価証券利息・配当金	-	-
有価証券売却益	-	-
その他経常収益	65	5
支払備金戻入額	62	-
その他の経常収益	2	5
経常費用	5,629	6,227
保険金等支払金	906	875
保険金	409	292
年金	36	7
給付金	281	343
解約返戻金	46	59
その他の返戻金	0	0
再保険料	131	171
責任準備金等繰入額	670	950
支払備金繰入額	-	79
責任準備金繰入額	670	870
資産運用費用	0	0
支払利息	0	0
有価証券売却損	-	-
事業費	2,504	2,875
その他経常費用	1,549	1,526
税金	9	13
減価償却費	43	31
保険業法第113条繰延資産償却費	1,481	1,481
その他の経常費用	14	-
保険業法第113条繰延額	-	-
経常損失(△)	△ 3,128	△ 3,341
特別損失	0	7
固定資産等処分損	0	7
価格変動準備金繰入額	-	-
税引前当期純損失(△)	△ 3,128	△ 3,349
法人税及び住民税	△ 1,102	△ 1,122
法人税等調整額	384	293
法人税等合計	△ 717	△ 828
当期純損失(△)	△ 2,411	△ 2,520

【注記】

1. 関係会社との取引による収益の総額は0百万円、費用の総額は61百万円であります。
2. 支払備金繰入額の計算上、差し引かれた出再支払備金繰入額の金額は3百万円、責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額の金額は8百万円であります。
3. 1株当たりの当期純損失は3,909円45銭であります。
4. 関連当事者との取引に関する事項は次のとおりであります。

(1) 親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
親会社	アクサ生命保険(株)	(被所有)直接100.00%	役員の兼任 出向者給与の支払	連結納税に伴う受取予定額	1,127	未収金	1,127
				出向者給与の支払	55	未払費用	6

(注) 価格その他の条件は、市場実勢を勘案して価格交渉の上で決定しております。

(2) 子会社及び関連会社

該当する事項はありません。

(3) 兄弟会社

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
親会社の 子会社	アクサ損害保険(株)	—	カスタマーサービス業務委託	カスタマーサービス業務委託費	84	未払費用	7

(注) 1. 価格その他の条件は、市場実勢を勘案して価格交渉の上で決定しております。

2. 取引金額及び期末残高には消費税等を含めております。

5. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

## 7. 経常利益等の明細（基礎利益）

（単位：百万円）

	2014年度	2015年度
基礎利益 A	△ 3,113	△ 3,311
キャピタル収益	-	-
金銭の信託運用益	-	-
売買目的有価証券運用益	-	-
有価証券売却益	-	-
金融派生商品収益	-	-
為替差益	-	-
その他キャピタル収益	-	-
キャピタル費用	-	-
金銭の信託運用損	-	-
売買目的有価証券運用損	-	-
有価証券売却損	-	-
有価証券評価損	-	-
金融派生商品費用	-	-
為替差損	-	-
その他キャピタル費用	-	-
キャピタル損益 B	-	-
キャピタル損益含み基礎利益 A + B	△ 3,113	△ 3,311
臨時収益	-	-
再保険収入	-	-
危険準備金戻入額	-	-
個別貸倒引当金戻入額	-	-
その他臨時収益	-	-
臨時費用	14	30
再保険料	-	-
危険準備金繰入額	14	30
個別貸倒引当金繰入額	-	-
特定海外債権引当勘定繰入額	-	-
貸付金償却	-	-
その他臨時費用	-	-
臨時損益 C	△ 14	△ 30
経常利益（損失） A + B + C	△ 3,128	△ 3,341

## 8. 株主資本等変動計算書

2014年度 ( 2014年4月1日から  
2015年3月31日まで )

(単位：百万円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	8,750	7,590	7,590	△ 6,796	△ 6,796	9,544	9,544
当期変動額							
新株の発行	999	999	999	-	-	1,999	1,999
剰余金の配当				-	-	-	-
当期純損失				△ 2,411	△ 2,411	△ 2,411	△ 2,411
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							-
当期変動額合計	999	999	999	△ 2,411	△ 2,411	△ 411	△ 411
当期末残高	9,750	8,590	8,590	△ 9,207	△ 9,207	9,133	9,133

2015年度 ( 2015年4月1日から  
2016年3月31日まで )

(単位：百万円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	9,750	8,590	8,590	△ 9,207	△ 9,207	9,133	9,133
当期変動額							
新株の発行	-	-	-	-	-	-	-
剰余金の配当				-	-	-	-
当期純損失				△ 2,520	△ 2,520	△ 2,520	△ 2,520
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							-
当期変動額合計	-	-	-	△ 2,520	△ 2,520	△ 2,520	△ 2,520
当期末残高	9,750	8,590	8,590	△ 11,727	△ 11,727	6,612	6,612

**【注記】**

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項  
(単位：株)

	当期首 株式数	当期 増加株式数	当期 減少株式数	当期末 株式数
発行済株式				
普通株式	644,614	-	-	644,614
合計	644,614	-	-	644,614
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項  
該当する事項はありません。
3. 配当に関する事項  
該当する事項はありません。
4. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

**9. 債務者区分による債権の状況**

該当する事項はありません。

**10. リスク管理債権の状況**

該当する事項はありません。

## 11. ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項目	2014年度末	2015年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	4,988	5,198
資本金等	4,688	3,649
価格変動準備金	0	0
危険準備金	299	329
一般貸倒引当金	-	-
(その他有価証券の評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ 損益(税効果控除前)) × 90% (マイナスの場合100%)	-	-
土地の含み損益 × 85% (マイナスの場合100%)	-	-
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	-	1,218
負債性資本調達手段等	-	-
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達 手段等のうち、マージンに算入されない額	-	-
控除項目	-	-
その他	-	-
リスクの合計額	312	343
$\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)		
保険リスク相当額	239	263
第三分野保険の保険リスク相当額	57	63
予定利率リスク相当額	0	0
最低保証リスク相当額	-	-
資産運用リスク相当額	56	57
経営管理リスク相当額	10	11
ソルベンシー・マージン比率	3,190.2 %	3,025.4 %
$\frac{(A)}{(1/2) \times (B)}$		

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条、第161条、第162条、第190条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

## 12. 2015年度特別勘定の状況

該当する事項はありません。

## 13. 保険会社及びその子会社等の状況

該当する事項はありません。